

# 自殺予防教育プログラム実施報告書

|     |           |
|-----|-----------|
| 学校名 | 北斗市立上磯中学校 |
|-----|-----------|

## (1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

|              |   |        |     |
|--------------|---|--------|-----|
| 研修等の実施日      | 令和5年7月19日(水)  | 研修参加人数 | 29人 |
| 研修内容         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺予防教育の組織的・計画的な実施について</li> <li>・アセスメントツールの活用について</li> <li>・「絆プロジェクト」について</li> </ul>   |        |     |
| 研修に参加した教職員の声 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自殺予防教育の重要性について、改めて認識することができた。</li> <li>・子ども理解支援ツール「ほっと」について、改めて内容を確認できたことや、「心と身体のチェックリスト」を活用し、生徒理解をさらに深めていきたい。</li> </ul>                       |        |     |
| 研修等で使用した資料名  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の自殺を予防するためのプログラム(平成30年3月 北海道教育委員会)</li> <li>・自殺予防教育の実施に向けて(その1)(平成29年3月 北海道教育委員会)</li> <li>・自殺予防教育の実施に向けて(その2)(平成31年3月 北海道教育委員会)</li> </ul> |        |     |

## (2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

|                     | 実施状況(主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等)   |  |   |            |    |     |    |             |     |     |   |            |     |     |      |                  |
|---------------------|--|--|---|------------|----|-----|----|-------------|-----|-----|---|------------|-----|-----|------|------------------|
| A<br>援助希求的<br>態度の育成 | ○ 実践の概要  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談しやすい人間関係」の構築を目指し、道徳科と特別活動の授業において、全学級担任及び生徒会担当が、いじめをなくするための取組「絆プロジェクト」を行った。</li> <li>・相談しやすい人間関係づくりのために、相談方法や会話の仕方について、各学級をリモートでつなぎ、生徒会書記局から課題を投げかけ、話し合った。また、それぞれの解決方法などについて、学級全体で取りまとめ、全校生徒との交流を行った。</li> </ul> |   | 【絆プロジェクト】  |    |     |    |             |     |     |   |            |     |     |      |                  |
|                     | ○ 生徒の変容を促す工夫   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主体的に意見交流を行うことができるよう、全校生徒を縦割り班にし、全校生徒での意見交流の場を設定した。</li> <li>・「絆プロジェクト」を年間指導計画に位置付け、年間を見通した取組となるよう設定した。</li> <li>・教育相談や三者面談、いじめアンケートなどを関連付けることができるよう、実施時期等を工夫した。</li> </ul>                                      |    | 【縦割り班での活動】 |    |     |    |             |     |     |   |            |     |     |      |                  |
|                     | ○ 生徒の変容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月と11月に実施した子ども理解支援ツール「ほっと」において、相談及び参加の項目に大きな変化は見られなかったが、「心と身体のチェックリスト」の「相談できる相手は誰ですか」という項目においては、「いない」と答えた生徒数が62人から51人に減少した。</li> </ul>   | <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目(略称)</th> <th>7月</th> <th>11月</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>悩みを相談する(相談)</td> <td>3.2</td> <td>3.2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>仲間に加わる(参加)</td> <td>3.3</td> <td>3.2</td> <td>-0.1</td> </tr> </tbody> </table> | 項目(略称)     | 7月 | 11月 | 増減 | 悩みを相談する(相談) | 3.2 | 3.2 | 0 | 仲間に加わる(参加) | 3.3 | 3.2 | -0.1 | 【「ほっと」の項目結果(全校)】 |
|                     | 項目(略称)   | 7月   | 11月   | 増減         |    |     |    |             |     |     |   |            |     |     |      |                  |
| 悩みを相談する(相談)         | 3.2  | 3.2  | 0   |            |    |     |    |             |     |     |   |            |     |     |      |                  |
| 仲間に加わる(参加)          | 3.3  | 3.2  | -0.1  |            |    |     |    |             |     |     |   |            |     |     |      |                  |
| ○ 生徒の感想             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級で交流を深め、互いを理解し合いたいと思った。</li> <li>・日頃から話しやすい雰囲気を心がけたい。</li> <li>・縦割り班で活動したことで、先輩の話が聞けて、とても参考になった。</li> </ul> |  |   |            |    |     |    |             |     |     |   |            |     |     |      |                  |

B 早期の問題認識（心の健康）

- 実践の概要
  - ・自殺予防の知識及び心身が不調なときの対応について理解を目指し、第1学年及び第2学年の保健体育科の授業において、体育科教員及び学級担任が、子ども理解支援ツール「ほっと」や「心と身体のチェックシート」の分析を基に、生徒の実態や特性を把握しながら、自殺予防のために必要なことや心の危険サインを知る方法に関する授業を行った。
- 生徒の変容を促す工夫
  - ・生徒が自殺の原因や予防方法などについて理解を深めることができるよう、環境や人間関係と自殺の相互関係について考えさせる活動を位置付けた。
  - ・SNSなど、ソーシャルメディアの利用によるストレスに対する対処法や心の健康につながるよう、「情報モラル教室」を実施した。
- 生徒の変容
  - ・7月と11月に実施した子ども理解支援ツール「ほっと」において、関係維持の因子が-0.6ポイント、仲間強化の因子が-1.1ポイントと減少した結果が見られるなど、心の健康に係る授業を実施することにより、生徒の心の変化について考えを深めることができた。
- 生徒の感想
  - ・相手の立場になり、相手を思う心を常に意識していきたい。
  - ・日頃の会話の中で、相手の心を傷つけないようにしていきたい。

| 因子   | 7月   | 11月  | 増減   |
|------|------|------|------|
| 関係維持 | 50.4 | 49.8 | -0.6 |
| 仲間強化 | 50.8 | 49.7 | -1.1 |

【「ほっと」の尺度得点結果（全校）】

C ストレス対処能力の育成

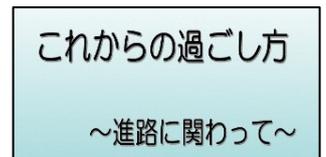
- 実践の概要
  - ・道徳科や特別活動、総合的な学習の時間などの授業において、「楽観的に考え直す」「将来に目を向ける」「自分に置き換える」「失敗を見つめ直す」等の視点から、第1学年は「日常の人間関係での悩みや不安」、第2学年は「進路選択をするに当たっての悩みや不安」、第3学年は「受験に向けての過ごし方」に対する対処法について考える活動を行った。
- 生徒の変容を促す工夫
  - ・発達段階に応じて、取組内容を検討した。
  - ・学級担任及び教科担任による指導だけでなく、学年集会等を活用し、他の教員の指導や講話などを行った。
  - ・第1、2学年は教育相談、第3学年は三者面談の時期に合わせて、事前アンケートを行い、生徒の生活や学習などの悩みを把握した。
- 生徒の変容
  - ・7月と11月に実施した子ども理解支援ツール「ほっと」において、自律と配慮に大きな変化が見られなかったが、自己統制の因子では0.1ポイントの増加が見られるなど、生徒が良好な関係を築き、良識に基づく意思決定を行う力を高めることにつながった。
- 生徒の感想
  - ・失敗を恐れて不安になることが多かったが、自分自身を振り返り、前向きに考えることも大切であることが分かった。



【第1学年のスライド】



【第2学年の学年集会】



【第3学年のスライド】

| 項目          | 7月  | 11月 | 増減 |
|-------------|-----|-----|----|
| 自らを律する（自律）  | 3.1 | 3.1 | 0  |
| 相手を思いやる（配慮） | 3.4 | 3.4 | 0  |

【「ほっと」の項目結果（全校）】

| 因子   | 7月   | 11月  | 増減   |
|------|------|------|------|
| 自己統制 | 51.9 | 52.0 | +0.1 |

【「ほっと」の尺度得点結果（全校）】